

令和2年度福岡県集団検診協議会各種がん検診部会委員会における事業評価結果の概要

| 項目 | 事業評価結果の概要 |
|------------------------------|--|
| <p>1. 市町村がん検診の状況</p> | <p>(1) がん検診受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年の受診率はほとんどのがん種で横ばい。 ・ 全国平均と比較して受診率は低位である。(肺がん検診部会委員会) <p>(2) 市町村における受診勧奨の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受診勧奨として効果のある「はがき等による個別通知」、「はがき等による再勧奨」を行っている市町村が少ない。良い事例については市町村間で共有すること。(子宮がん検診部会委員会) |
| <p>2. 市町村がん検診における精密検査の状況</p> | <p>(1) プロセス指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「がん発見率」、「陽性反応適中度」、「精検未把握率」について許容値に達していない市町村が多く、全体的な底上げが必要である。 ・ 精検未把握率が許容値に達していない市町村は、受診者本人への確認を行うとともに、確認方法や回数等の分析が必要である。 ・ 精度管理について、県の受診率が全国と比較して低位にも関わらず、プロセス指標の数値も悪い市町村が多い。(肺がん検診部会委員会) <p>(2) 検診機関の事業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村は検診機関に対して、評価及び改善の働きかけを行い、検診の質の向上に取り組むこと。 ・ 事業評価のためのチェックリストは、集団検診に限らず個別検診も含めて検診を行っている機関の全てで行われるべきである。 |
| <p>3. 令和2年度における市町村の実施内容</p> | <p>(1) 検診項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 胃内視鏡検査を実施している市町村が昨年に比べ増えており (R1: 20市町→R2: 30市町村)、受診機会の確保が進められている (胃がん検診部会委員会) <p>(2) 対象年齢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の指針の基準を下回る年齢で検診を実施している市町村に対して、県は国の指針に基づく対象年齢での実施を指導すること。 ・ 昨年と比較して国の基準を下回る年齢で実施する市町村が減っており、改善がみられる。(胃がん・大腸がん検診部会委員会) |

令和2年度福岡県集団検診協議会各種がん検診部会委員会における事業評価結果の概要

| | |
|--------|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 検診の対象年齢を10代からとしている市町村があるが、検診を受けることにより被る不利益が懸念される（胃がん・大腸がん検診部会委員会） <p>(3) 検査結果の通知</p> <ul style="list-style-type: none">・ 精密検査結果を受診者に通知するまでの期間が半年を超えると、病状の進行によるリスクを伴う。医療機関から報告を受ける時期が遅い市町村は、医療機関に対して催促する等の改善が必要である。（乳がん検診部会委員会） <p>(4) 肝臓がん検診について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 福岡県は全国においても佐賀県と1、2位を争うほど肝臓がんの死亡者数が多かったところであるが、現在はかなり改善されてきており、県の事業の効果が出ているものと認められる。（肝臓がん検診部会委員会） |
| 4. その他 | <p>(1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により、各種検診が中止され、再開後も受診控えが発生している。 終息後、より一層県民の健康増進に取り組んでいけるよう、受診率向上の対策及び検診体制の整備を進めていただきたい。・ 各がん(検診)学会ホームページにおいて、がん検診における新型コロナウイルス感染症への検診実施機関の対応について掲載されているため参考にされたい。 |